

ふれあいまつりに 大口町の歴史あり

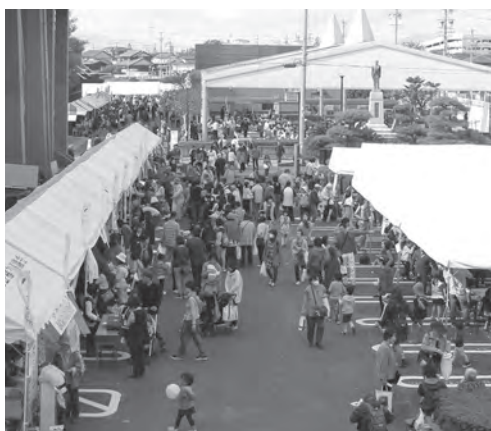
涼しい秋の風を感じるようになると毎年恒例の「ふれあいまつり」がやってきます。みなさんが楽しみにしているこのおまつりは、現在のような町をあげての大規模なおまつりとなって今年で17回目を迎えます。



行政による試行錯誤

ふれあいまつりは、「参画と参加のまちづくり」という大口町の施策に基づいて、「町内で活動する団体や企業行政が日頃の活動をPRし、お互いの交流の場とする」という目的で開催され、毎年6000人ももの来場者が、町内ばかりでなく近隣市町からも訪れます。

運営は住民団体と行政の協働による実行委員会形式でおこなわれ、企画・準備（会場のゾーニングやブース出展団体とステージ出場チームの募



集、備品や看板の設置など）から当日の運営までの7か月間をすべて実行委員がおこなっています。

住民参画によるおまつり

平成11年までは「産業まつり」「文化祭」「消費生活展」、大口町社会福祉協議会の「福祉コーナー」などが秋にまとめて同じ会場でおこなわれていました。担当課が違い、事務局は毎年もち回りで、まとまりのないものでした。平成12年、新しくできた「地域振興課」が担当課になり、『ふれあいまつり』として開催することになりましたが、まだまだ行政主導で住民は当日参加するのみというものでした。その後、ボランティア住民も参加した実行委員会形式となったものの行政主導は変わらず、しばらく試行錯誤が続きました。

町の行事として定着し、参加団体や家族連れなど一般の方たちの来場も増えてきたため、住民による自主的な活動への移行を目指し、平成18年から一般住民公募による、まちづくり応援隊「太助」を中心とした住民団体が企画の段階から運営をおこなう実行委員会が立ち上がりました。そのとき生まれた「つながれ ひろがれ いきいき大口」というスローガンが、今でもふれあいまつりのテーマとなっています。

「太助」という町内団体の交流とつながりを作ることが目的の団体が関わったことが、ふれあいまつりの方向性を大きく変えました。当時のプロジェクトメンバーは語ります。「太助のメンバーがおまつりの成功に向けて『行政の参加も必要だ』と、地道に働きかけたことで、それまで重かった各課の腰が上がり協力的になりました。今ではほとんどこの課が積極的に出展するようになったのは、太助の力によるところが大きいです」これが「年に1回の団体と行政のPRの場、ふれあいまつり」になり、住民主体の協働委託事業となって発動したのです。



▲実行委員が作るブース平面図

誕生！おおぐち元気戦隊 ダッシュユマン

毎年ふれあいまつりのステージを盛り上げている「おおぐち元気戦隊ダッシュユマン」をご存知ですか？驚くべきことに、ダッシュユマンは、役場職員による手作りのヒーローなのです。

平成16年、役場内ふれあいまつりプロジェクトメンバーで、大口町の元気をPRするキャラクターを作ろうというアイデアが出ました。愛知万博を翌年に控えていたので、他のイベントでも大口町をPRするのに役立つという思惑からでした。



ヒーローものにしたのは、その時々町の力を入れていた施策をストーリー仕立てで啓発するため。高校の演劇部以来興味で演劇を続けている職員を中心に、学生時代ヒーローもののアルバイトをしていた保育士が加わり、音響、衣装、舞台装置、台本、そして実際に演じる俳優に至るまで、経験や伝手を駆使したすべて手作りの作業が始まりました。

「当時入庁2年目。新人の自分すべてをまかせてもらえたのは驚きでした。小回りがきく、おおらかな気風の大口町ならではの」と、中心メンバー。協力者20名ほどで、立ち上げ

のすべてを業務時間外でおこないました（立ち上げのいきさつは、当時ニュース番組で密着取材され、ダッシュユマンは誕生前から大口町のPRに一役買ったのです）。

デビュー公演はふれあいまつり、憩いの四季 娯楽室。始まる前こそり客席をのぞいたら、なんと立ち見が出るほど子どもたちとその家族で満席だったのは今でも忘れられない光景だそうです。「公演は無事成功。幕が閉じた後、思わず立ち上げメンバー全員でハイタッチしました。このときから若い職員の間に関結が生まれ、課外活動も一緒にいろいろやるようになってきました」と、当時を思い出して語ってくれました。

余談ですが、ついできっとおきのダッシュユマンの秘密を教えましょう。ダッシュユイエローとダッシュユブルー、実は夫婦。誕生から12年を経て、2人の中には子どもがいるんです。子どもにも2人がダッシュユマンであることは内緒だそうです。時々、お母さんのブルーが戦闘をお休みするのは、小学校の運動会や学習発表会を見に行っているからなんですよ。



今年も
ふれあいまつりで
会おう！



ばんや “なかよしこよし”
「パンのお楽しみ袋」

中央公民館隣の「いいこ工房」で地産地消をめざして、大口町産の野菜・果物を使ったパンを月2回製造し、ほほえみプラザと憩いの四季で販売しています。定期的に季節感を取り入れたオリジナルのパンを考案しています。



ふれあいまつりでは毎年ワンコイン（500円）で買えるお楽しみ袋を販売。惣菜パンや菓子パンと焼き菓子をセットでお得！発酵からの完全手作りで無添加の安心なパンです。お楽しみ袋は約100個の限定販売。お早めにお買い求めください！



ハートフルおおぐち
地域活動支援センター

18才からおおむね65才までが通う、障がい者施設。身体障がい、知的障がい、精神障がいの方が施設を利用していただきます。ものづくりやレクリエーションを通して、社会との交流などに力を入れています。

ふれあいまつりに出品するのは張り子の干支人形。職員のみ一人、美術科の出身の天谷政治さんが考案した、通所者のみなさんと一緒に作り上げる作品はどれも完成度の高いものばかりです。今年度は来年の干支、ニワトリの人形を出品します。「オリジ



▲ハートフル大口

ナルのものをと思い珍しい張り子を選びました。質を落とさず簡単に、みんなで協力して少しずつ作れるよう、作り方を研究しました。伝統的な素朴さに現代的なアレンジを加えたオリジナル作品です」と天谷さん。張り子は、全工程に2週間以上かかるそうです。ふれあいまつりでは大（2000円）を10個、小（1500円）を5個出品します。他には、羊毛フェルトのサンタ人形やアクリルたわしなども出品予定です。



脱メタボおじさまの会
「脱メタボ農園もち米」

平成18年度、「男性のための元気UPヘルシーライフ教室」の受講生（内、数名がメタボ該当者）が中心となって発足。食事と運動の両面を互いに確認し合って楽しみながら活動しています。活動内容は、男の料理教室、ハイキングなど。



▲写真提供/尾北ホームニュース

メンバーの一人が提供した田んぼを脱メタボ農園と名付け、毎年もち米を栽培。種まきから収穫までを、低農薬でおこなっています。ふれあいまつりでは1・4kg（1升）を550円という格安な値段で販売。パッケージに顔写真を載せ、作り手がわかる安心なもち米。毎年100袋以上予約が入り、ふれあいまつりが終わるとほぼ完売だそうです。大口産の安心でおいしいもち米、ぜひ一度、賞味ください！



▲昨年の文化祭作品展

私たちが
ふれあいまつりに
出展します！

NPO法人ウィル大口スポーツクラブ
「スポーツフェスタ☆屋台」

地域住民の健全育成と生涯スポーツの推進を通して、「健康なまちづくり」を目指そうと、平成15年に特定非営利活動法人として発足。現在はスポーツ教室や町内のスポーツ関連施設の管理だけでなく、子ども向けの土曜学級、サマーキャンプやスポーツ栄養学講習会など幅広く事業を展開しています。

毎年ふれあいまつりには、総合運動場で「スポーツフェスタ」を開催します。同時に、ウィル大口スタッフが自ら調理する自慢の屋台も出店。大口のB級グルメをめざし、調理師免許を持ったスタッフが日夜研究を重ねて開



▲スポーツフェスタ



生地はもちもち、中に入った福神漬がコリコリ、外側のぎょうざの皮がパリパリ、コーンも入ってお子さんも食べやすい！きしめんと隠し味に赤みそを入れた地元の味へのこだわりが自慢です。

発した「でら焼き（1個300円）」を出します。スタッフがひとつひとつ丁寧にその場で鉄板で焼き上げます。ぜひ、スポーツフェスタでご賞味あれ！



ヘルシーエイジングの会
「手作り石鹸」

「いきいきと楽しくく年を重ねよう」をコンセプトに、平成12年にヘルシーエイジングの会を発足し、食に関する情報発信を中心に活動しています。

5年前より大口中学校で地産地消をめざした料理教室をおこなっている縁で、中学の家庭科クラブとのコラボで手作り石鹸を作るようになりました。廃油と米のとぎ汁を利用し、苛性ソーダなどを入れて科学反応をさせて作る、地球にやさしいエコ石鹸（2個入150円）。

洗濯はもちろん、洗顔から洗車まで幅広い用途で使え、



▲石けん作り



汚れがびっくりするほどよく落ちます。パッケージはイラストの得意な中学生のデザイン。ぜひ一度お試しあれ！

取材にて

現在、ふれあいまつりは「住民主体」がすっかり定着していますが、歴史をひもとけば、関わったすべての人の試行錯誤の歴史でした。わずか数年で行政主導から住民主導に切り替わり、今やすっかり大口町の住民の元気を象徴するまつりとなったのは、「参画と参加のまちづくり」を掲げている大口町が舵取りを過たず一丸となって同じ目標に向かって進んできた歴史に他ならないと再認識しました。

今年も、一人ひとりが主役のふれあいまつりがやってきます。

今年のふれあいまつり実行委員長は、住民団体であるNPO法人子どもと文化の森代表岩根佐代子さん。「ふれあいまつりは町民のみならず、各団体のみなさん、企業、行政（姉妹都市である松江市も参加します）、みんなで創り上げるおまつりです。みなさん、思いっきり楽しんでください！」と意気込みを語ってくれました。「つなぐれ ひろがれ いきいき大口」のスローガンのもと、今年もみんなでまつりを盛り上げましょう！